

【終了しました】
 ※講演資料は、以下のプログラム内よりダウンロードが可能です。

G 空間 EXPO2016
 日本写真測量学会・日本リモートセンシング学会 シンポジウム
 「地球観測の実利用展開に向けて」

【主催】：一般社団法人日本写真測量学会、一般社団法人日本リモートセンシング学会

（共催）：一般社団法人地理情報システム学会

- 開催日時：2016年11月24日（木）14:00-17:00（13:45受付開始）
- 開催場所：日本科学未来館 7F 会議室1

【趣旨】

次期地理空間情報活用推進基本計画の検討にあたり、地理空間情報を高度に活用して我が国の社会課題の解決や新たなサービス・産業の創出を目指すことが方向性として示されています。また、第5期科学技術基本計画で取り組むこととされた世界に先駆けた「超スマート社会」の実現（Society 5.0）に向けて、地球観測を含む地理空間情報は、それを駆動するデータを生み出すシステムの一翼を担うものとして位置付けられます。ここにおけるデータとはIoTやビッグデータによる巨大なデータを含むものです。一方、地理空間情報の収集にもドローンやMMS（Mobile Mapping System）など新しい手段が登場しています。このような背景の下、地球観測を含む地理空間情報の実利用を推進し、産業化を目指して社会に実装していくためには、地理空間情報を用いるのみならずさらに近年急速に発展しているICT技術と連携して有用な情報を生成することが求められています。本シンポジウムでは、以上の観点に基づき地球観測を含む地理空間情報の実利用の展開方策について議論を行ないます。

【プログラム】

14:00-14:05	趣旨説明	福田徹 （（一財）リモート・センシング技術センター）
14:05-14:15	「リモートセンシング政策の検討状況について」 （PDF：1.82MB）	高見牧人 （内閣府宇宙開発戦略推進事務局）
14:15-14:25	「宇宙xICTに関する懇談会」 （PDF：3.37MB）	笠井康子 （総務省情報通信国際戦略局技術政策課）
14:25-14:45	「民間事業者におけるMMSで取得した 三次元地理空間の利活用の取り組み」 （PDF：5.35MB）	島村 秀樹 （株）パスコ）
14:45-15:00	「写真測量学会における取り組み： 空間情報収集手段としてのUAVの可能性 ～近接リモートセンシングツールとしてのUAV活用」 （PDF：2.99MB）	梶原康司 （千葉大学）
15:00-15:15	「リモートセンシング学会における取り組み」 （PDF：3.08MB）	伊東明彦 （宇宙技術開発（株））
15:15-15:30	「地理情報システム学会における取り組み： IoTとGIS分科会」 （PDF：15.1MB）	巖 網林 （慶應義塾大学）
15:30-15:45	<休憩>	
15:45-17:00	パネルディスカッション 「地球観測の実利用展開に向けて」 （PDF：0.44MB）	司会： 福田徹 パネリスト： 各講演者
17:00-	閉会の辞	

（敬称略）